

江戸川区景観まちづくり賞：総評

11回目を迎えた今回の景観まちづくり賞は、コロナウイルス拡大の影響もあり、活動部門への応募はありませんでしたが、建築部門へは8点の応募があり、受賞対象として2点を選出しました。

建築部門の応募内訳は、共同住宅(5階建て以下)が3点、同(10階建て以上)が2点、それ以外に、戸建て開発、信用金庫、専門学校がそれぞれ1点という構成でした。

受賞作のパークホームズ船堀(北葛西一丁目)は、小さな稲荷神社に隣接する10階建ての共同住宅で、建ぺい率が少なめなことも手伝って建物周囲に大きなゆとりが生まれ、透明感のあるバルコニーが軽やかな印象を与えてくれます。敷地の前面側には神社の樹々と呼応する形で庭状の広場を配し、季節感のある植栽の中を誰もが散策できるようなつくりとしている点が、街へ向けての優れた貢献を果たしています。また、駐車スペースをすべて平置き型とし、そこへ向かう車路に曲線を用いたことが全体としての穏やかな印象につながっています。

同じく受賞作のハウス瑞江(南篠崎町四丁目)は、東井堀親水緑道に面する5階建ての共同住宅で、比較的lowな周囲の街並みに呼応する高さ、および素材の分節化が生み出す外壁のリズム感が落ち着いた雰囲気を作り出しています。親水緑道に面する西側に比較的奥行きのある植栽を配し、エントランス脇に開放的なガラス張りラウンジを置くことで街との好ましい関係が生まれ、自然石風の舗装材や和を感じさせる砂と樹木の構成が、地域にふさわしい素朴な特徴を感じさせてくれます。なお、駐車スペースを行き止まりではなく、緊急時には近隣者も通り抜け可能なつくりとしている点は、防災上も優れた方策と言えます。

本景観賞の評価に際しては、周囲の街並みとの調和に配慮した建物規模や配置、植栽や素材の工夫に加えて、近隣者も利用可能な遊歩空間や災害時に備えたつくりなど、地域への貢献度も大きな評価基準としています。

なお、残念ながら今回選出されなかった建物も、公道に沿って敷地内に遊歩空間を設けたり、歩行者からも視認できる屋上緑化の工夫など、景観への積極的な配慮が見られました。

今後ともぜひ、景観まちづくりを通して江戸川らしさを演出してくれるような様々な取り組みが展開されることを期待したいと思います。